

渉外レポート International affairs Report

Vol.26

TOPICS 1 英国最高裁判所長官の招へい



英国最高裁判所のロバート・ジョン・リード長官が、11月26日から12月2日までの間、最高裁判所の招へいにより日本を訪問されました。詳細は、裁判所ウェブサイトをチェック！

https://www.courts.go.jp/about/topics/Nov2023_uksc_president/index.html



戸倉長官とリード長官



リード長官による講演会

TOPICS 2 各国の法曹による最高裁訪問

令和5年秋以降、多くの外国法曹が最高裁判所を訪問しました。

9月4日 インドネシア共和国憲法裁判所判事の訪問

https://www.courts.go.jp/about/topics/visit_2023_september_indonesia/index.html

9月15日 ラトビア共和国最高裁判所長官の訪問

https://www.courts.go.jp/about/topics/President_of_the_Supreme_Court_of_LT/index.html

10月12日 独日法律家協会一行の訪問

https://www.courts.go.jp/about/topics/A_delegation_of_the_German-Japanese_Association_of_Jurists_visited_20231012/index.html

11月7日 アイスランド最高裁判所長官の訪問

https://www.courts.go.jp/about/topics/Chief_Justice_of_the_Supreme_Court_of_Iceland_visited_20231107/index.html

11月15日 ベトナム最高人民法院長官の訪問

https://www.courts.go.jp/about/topics/chief_justice_of_the_supreme_peoples_court_of_vietnam_visited20231115/index.html



戸倉長官、長嶺裁判官とアイスランド・ボガソン長官ら
アイスランド法曹協会一行



戸倉長官と
ベトナム・ビン長官



戸倉長官と
ラトビア・ストゥルピッシュ長官

TOPICS3 ちらっと海外

拡大版

在外研究員からの声をお届けするコーナーです。来年度の長期在外研究員の募集時期に合わせ、今号は拡大版でお届けします！

「知恵の源泉はビール？」

令和5年度判事補海外留学研究員・ベルギー・ルーヴェン大学派遣
仙台家庭・地方裁判所石巻支部判事補（特例）増崎浩司

ブリュッセルのシンボルといえば「小便小僧」ですが、学生街ルーヴェンのシンボルは、こちらの銅像、その名も「Fonske」。私は、親しみを込めて「 Fonck君」と呼んでいます。台座にはラテン語で「知恵の泉」と刻まれていることから、 Fonck君は、ベルギービールを頭に流し込んでいるわけではなく、読書を通じて「知恵」を頭に流し込んでいるようです。



ルーヴェンのシンボル「Fonske」像。1975年に、ルーヴェン大学の創立50周年（！）を記念して、市に寄贈されたものだそう。



アントワープの陪審法廷。非常に美しい法廷です。証言台の先にはキリスト像が描かれていました。

私は、EU本部が置かれ「ヨーロッパの首都」と称される国際都市ブリュッセルを抱えるベルギーにおいて、EU法を含むEU司法制度に対する知見を深め、EUにおける裁判手続デジタル化の実情を学びたいと考え、ルーヴェン大学への派遣を希望し

ました。現在、20カ国以上の諸外国から集まった意欲的な学生達と共に、卓越した教授陣にご指導いただきながら、刺激的で充実した日々を送っています。また、ベルギーの裁判官、検察官、弁護士との意見交換は、日本の司法制度を相対的に眺める非常に貴重な機会となっています。



ベルギー名物1メータービール（横幅なんと1m！）。ベルギービールの銘柄数は100種を越えるとの説も。



欧州議会。内部見学もさせていただきました。

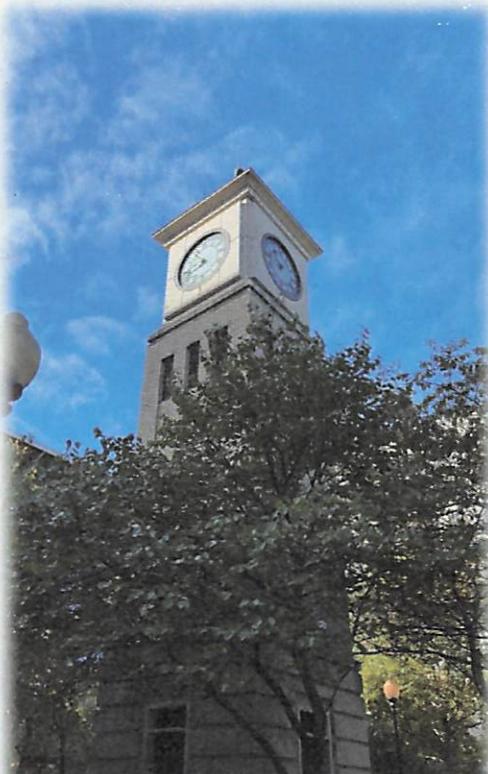
今後も、 Fonck君のように、なるべく多くの「知恵」を体いっぱいに流し込んで参りたいと思います。

「在外研究での気づきについて——調停の分野から——」

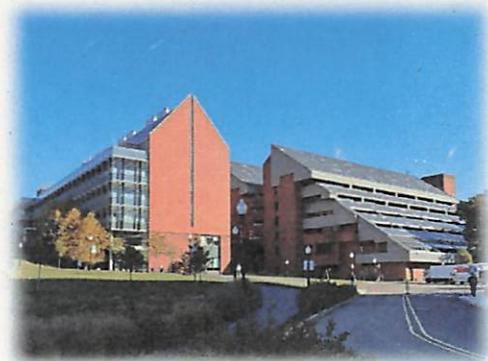
令和5年度判事補海外留学研究員・米国・ジョージタウン大学派遣
長崎家庭裁判所判事補 重田裕之

「調停とは両当事者の思考状態をシステム1からシステム2に導く技術だ。」というのは、調停人や仲裁人をしている弁護士からサマースクールで聞いた言葉です。「システム1・2」は、心理学者であるダニエル・カーネマン教授が『ファスト&スロー』の中で紹介・解説している人間の思考パターンです。

システム1は、直感的で反射的な印象に基づく判断を、システム2は、考えをめぐらせた上で理路整然とした判断をいいます。当事者の思考



こぢんまりとした時計塔はローセンターのシンボルです。



メインキャンパスでは国際関係を学ぶ学生と交流する機会もあります。

状態が、感情に支配されて会話すらままならないこともあるシステム1の状態から、調停を通じてシステム2の状態に切り替わり、話し合いが可能な状態になれば、その先のことは自ずと見えてくるというわけです。ここまで言い切るかはともかく、このような切り口で調停等を考える発想は日本ではあまり見ないものであったように思います。

対照的に米国では、同書を含む認知科学の知見に基づく交渉・調停に関する研究が盛んに行われており、ロースクールのテキストでも紹介されています。

このように日本で直面していた問題に対する気づきを得てこれを深めら

れることが留学の醍醐味の一つなのではないかと思います。

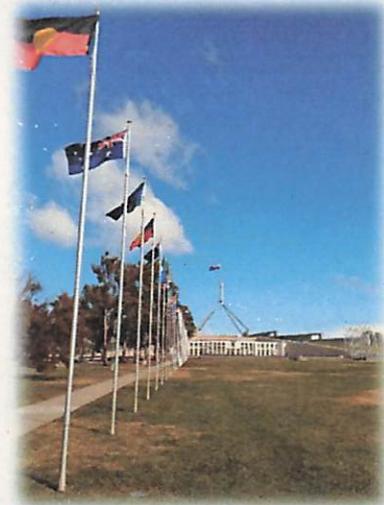
「多文化主義の国での過ごし方」

令和5年度一般職長期在外研究員・豪国・オーストラリア国立大学派遣 広島家庭裁判所尾道支部 裁判所書記官 崎山 徹

私は、現在、オーストラリア国立大学法学部の客員研究員として、授業聴講、裁判所等への訪問及び司法関係者等へのインタビューをしながら、同国の裁判手続における「デジタル化」及び「障害者配慮」の現状について研究しています。

留学を希望したのは、民事部でIT導入に関わったことをきっかけに「誰もが使いやすい裁判手続とは…？」と強く意識するようになり、海外の取組みを知りたいと考えたためです。また、裁判所書記官としての視点だけでなく、医療福祉の専門職である言語聴覚士や行政職員としての経験を生かして先進国の訴訟運営を分析することで、「誰もが使いやすい裁判手続」の実現に貢

献できるのではないかと考え応募しました。ただし、海外旅行の経験すらなく、単に英語の資格を取得していたに過ぎなかったため、外国での生活に不安もありました。そこで、応募後は、健康に活動するための体



パーラメントハウス



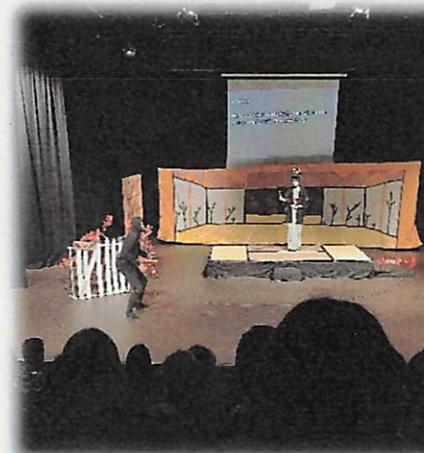
ザ・歌舞伎

会食その他アクティビティを楽しんでいます。また、大学の歌舞伎倶楽部に参加し、7月から約3か月間、役者として学生やOBメンバーと共に稽古に励み、10月の3日連続公演が成功したことは貴重な経験になりました。出身国も様々であるメンバーが懸命に日本語のセリフを練習する姿勢に胸が熱くなりましたが、役者・裏方そして大勢の観客が一体となり日本文化を楽しむ光景に、大きな喜びを感じました。

留学生活では、壁にぶつかることが多いですが、日本にもオーストラリアにも相談できる仲間がいることに感謝しながら、国際感覚と広い視

力強化に加え英会話のオンラインレッスンに励みました。

オーストラリアは移民国家であるため、互いの差異を認め合い誰に対してもフレンドリーに接する傾向が強いと感じます。そのため、法学部の教職員の中に日本人はいませんが、フレンドリーな雰囲気の中、研究の話題以外にも様々なことを話して楽しく過ごしています。私生活では、キャンベラ在住の日本人、留学生、他省庁の方、大学外の友人等、年齢、職業及び国籍等の多様な方々と



歌舞伎シーン（中央が崎山）

野を身につけて帰国できるよう、積極的に様々な経験をしたいと考えています。

TOPICS 4 秘書課ナビ活用情報

令和5年度に帰国した長期在外研究員の研究目的一覧は[こちらから](#)（一覧中のリンクから各研究員の最終報告書を見る事ができます。）。

その他、courts ポータルの「[秘書課ナビ](#)」の「[外国出張報告書](#)」に、海外出張者が作成した過去の報告書簡を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

